

かお・人・interview

2024年1月18日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局
北九州国道事務所 所長

掛田信男氏

KAKEDA Nobuo

北九州国道事務所は、福岡県北東部における直轄国道の維持管理やバイパスなどの整備により地域の発展や安心・安全の確保、人々の生活の質を高める役割を担っている。そのためには、地域に寄り添って課題を把握し解決策を見出し着実に取り組んでいくことが重要であり、その取り組みを支える技術者の育成や働き方改革の推進にも注力したいと掛田所長は語った。現在取り組んでいる事業や課題、将来的な展望などについて話を伺う。

Q 所長就任にあたっての抱負

国道事務所の使命は、「よいインフラをつくり、よりよい管理を行うこと」です。これによって、地域の発展を支え、ひいては生活の質を向上させると考えます。道路は単体で成り立つものではなく、地域や国土をより良くするための一つの重要なツールです。この視点から、道路を含む地域や国土全体の発展に向けて努力していきたいと考えています。使命を果たすためには、地域の声に寄り添って課題を着実に解決することが重要です。また、地域を共に支える建設業や建設関連業の皆様が維持・発展するために、質の高い発注と監理が欠かせません。

同時に、事務所職員の技術力や仕事の質を向上させることも重要です。管内の建設業界を含め、技術交流などを通じて建設産業に従事する人材育成にも努めていきます。



▲国道3号岡垣バイパス 上畑高架橋の施工状況 (R5年4月)

Q九州や福岡県とのかかわり

福岡県で生まれ育ち、北九州国道事務所勤務は3度目の勤務です。これまで係長、課長としてバイパス整備などに携わりました。

福岡県をはじめ九州では多くの貴重な経験をさせていただきました。

特に印象深いのは、令和2年7月豪雨の熊本県球磨村、平成29年7月豪雨災害の福岡県東峰村に、被災地支援のためにTEC-FORCEの一員として向かったことです。ライフラインが寸断するなど過酷な状況の中で、私たちの仕事が道路





▲国道3号黒崎バイパス 黒崎西ランプの施工状況(R5年4月)

や河川の整備だけでなく、災害時に地域の皆様を支えることが大切な役割だと再認識しました。

この時、地域の建設業やコンサルタントの皆様が、共に奔走してくれました。業界の方々との協力体制の重要性を再認識した出来事であり、私にとって大きな教訓となりました。

Q 当事務所の紹介(事業内容、組織、特徴)

福岡県の半分、30市町村を管轄しており、国道2号、3号、10号、201号の約180kmを管理しています。また、改築事業や交通安全事業、電線共同溝事業に取り組んでいます。

組織は、8つの課と3つの出張所から成り、総員は93名です。管内は、九州の玄関口である政令市北九州市をはじめとした北九州地域や、筑豊地域、京築地域により構成されています。これらの地域は、炭鉱や鉄鋼産業で近代日本の産業を牽引したものづくりの伝統を受け継いでいます。近年では、自動車産業などの進展が著しく、最新鋭のロボット産業なども盛んです。

一方、管内市町村の総人口は2023年で約180万人であり、2000年の約200万人と比較して1割近く減少しています。少子高齢化は今後も避けることのできな

い問題ですが、将来に向けて地域をどのようにして維持・発展できるかという大きな課題に取り組むことが必要です。

Q 今年度の事業概要

● 国道3号「黒崎バイパス」

令和5年3月18日に春の町ランプと陣原ランプが開通し、国道3号東西方向のバイパスが構築されました。令和5年度は黒崎西ランプの整備に向け橋梁工事などを推進しています。

● 国道3号「岡垣バイパス」

北九州市と福岡市を結ぶ国道3号唯一の2車線区間を4車線化する事業です。令和6年2月3日の完成に向け、道路付属物設置工事などを推進しているところです。

● 国道201号「八木山バイパス」

福岡都市圏と筑豊地域を結ぶ幹線道路で、篠栗IC～筑穂IC間の令和6年度完成を目指し、橋梁工事などを推進するとともに、筑穂IC間～穂波東IC間の令和11年度開通に向け、改良工事、橋梁工事、九郎原トンネル工事などを推進しています。

● 国道201号「香春拡幅、仲哀拡幅」

香春町、香春町～みやこ町間における4車線拡幅事業であり、渋滞緩和や安全性の向上を図ります。

これらの改築事業のほかに、交通安全事業、電線共同溝事業を進めるとともに、橋梁、トンネルなどの道路インフラの維持管理に取り組んでいます。

Q 地域との連携・協働について

管内の市町村の首長の皆さまからは、バイパス整備や交差点、歩道などのさまざまな課題や老朽化対策などについて相談を受けます。ハード面での解決策は限られますが、膝を突き合わせ、課題や背景をじっくりと

事業費 (単位:百万円)

予算区分	令和5年度
バイパス整備等	9,920
交差点改良・歩道整備等	375
電線共同溝整備	783
計	11,078

※上記のほか、維持管理費、道路交通安全対策事業費2種、調査費、工事諸費等があります。



▲国道201号八木山バイパス 本谷高架橋の施工状況 (R5年4月)



▲国道201号春春拡幅 鏡山東交差点から飯塚方面を望む (R5年4月)
写真提供：北九州国道事務所

お聴きすることで、知恵を出し合い、ソフト面での対策も含めて解決できる可能性があると感じています。

引き続き、地域の声を丁寧にお聴きしながら、率直に相談し合える関係性を築いていきたいと考えています。

Q 地域建設業への要望・メッセージ

これまで、各建設業団体との窓口や積算・施工管理などの基準策定などを担当するとともに、災害時は皆様とともに活動してきました。

国土交通省には、発注者としての立場と災害時などにおける地域を守る、インフラの管理者としての役割があります。発注者としては、地域建設業界が健全に維持、発展できるよう、皆さまの声を聴き、よりよい発注・監理に努めてまいります。

一方、災害時には受発注者としての関係ではなく、一体となって地域・国土を守る心強いパートナーです。地域建設業の皆さまへのお願いは2つあります。

まず、起こってほしくない出来事ですが、地震、豪雨などの際には、私たちと心をつなげて取り組んでいただくことを改めてお願い申し上げます。次に、将来を担う技術者の育成も極めて重要です。日本の少子高齢化の問題は避けられず、技術の継承と発展、そしてその技術を担う人材の育成が喫緊の課題です。私たちは研修会や様々な場を通じて、建設業の魅力を発信し、若手技術者の育成に全力で取り組んでいます。新しい才能を育て、次世代のリーダーを育成するために、皆さまのお力添えと忌憚ないご意見をお願いします。

Q 働き方改革への取り組み

建設業界を取り巻く環境は大きく変化しています。労働生産性を高めるために新技術の活用を進めています。災害対応力を維持し地域を守るために建設業の担

い手確保が重要です。

そのためには建設業を魅力ある職場とする「働き方改革」が不可避であり、我々国土交通省が率先して働き方を変えていく必要があると考えています。これは課題という見方ではなく、業界や行政にとって働き方を変える絶好のチャンスだと考えています。

Q 趣味や健康法について

学生時代からサッカーやテニスなど楽しんできましたが、最近は手軽な自転車やランニングがお気に入りです。ランニングは目的地やルートを決めずに橋や街並み、美味しそうなお店などを眺めながら気の向くままに走ります。ふと気づいたら20キロ以上走っていることもあります。体を動かすことで頭の中が整理され、新たな視点に気づくことで仕事の悩みが解決することもあります。北九州をよく知っているつもりですが、走ることで今まで気付かなかった新しい発見があるかもしれません。機会を作って楽しみたいと思います。

座右の銘はありませんが、強いて言えば「人との関係を大切に、仕事を楽しむ」ことでしょうか。この考えは、新たな挑戦に対して果敢に取り組むための基礎になっています。

プロフィール



出身地：福岡県
生年月日：昭和47年3月7日 (51歳)
H 7年4月 建設省(九州地方建設局 熊本工事事務所(当時))
H29年4月 九州地方整備局 北九州国道事務所 工務課長
H31年4月 九州地方整備局 企画部技術管理課 課長補佐
R3年4月 国土交通省道路局国道・技術課 (併任：高速道路課) 課長補佐
R5年4月 現職